

# 家庭科教育における児童虐待に関する教育内容の検討

和洋女子大学 家政学群 服飾造形学類 小澤美鈴

## 1. 研究の背景と目的

児童虐待相談対応件数は増え続け、2000年に17,725件であった件数は、2018年には約16万件と10倍近い値となっている。児童虐待を防止するには、社会の体制や意識を高めるとともに、親になる若者への教育も重要である。高等学校家庭科の保育領域の学習では、「子供が育つ環境と福祉」「子育て支援」「子供との関わり方について」の知識や技能を身に付けることなどが指導内容とされている。

そこで本研究では、虐待の事例から虐待の要因や背景、さらに虐待防止の方法を検討し、その内容をもとに家庭科教育における指導内容を検討する。



資料) 厚生労働省 (2020) 児童相談所での児童虐待相談対応件数とその推移

## 2. 研究方法

児童虐待に関する文献、新聞記事、Webサイトの記事、自治体の報告書、裁判の判例集等をもとに20の虐待事例を調べ、要因と背景の分析を行った。そこから見える共通点を見つけ、家庭科教育における指導にどのように反映できるのかを検討した。

## 3. 結果及び考察

### (1) 事例分析による虐待の要因

児童虐待が起きる要因として、厚生労働省のまとめたりスク要因として、保護者側の要因としては精神的な問題、保護者自身が未熟で育児にストレスのある状態、生育歴の問題、子ども側の要因としては発達に関わる問題、そして、養育環境の要因としては経済不安、家族関係の問題、親族や地域からの孤立の問題等が指摘され、本研究の事例においてもそうした要因が確認できた。さらに、厚生労働省では「子どもの人権侵害」の問題としており、本研究でも「人権意識の欠如」という要因が認められた。特に確認できた要因をまとめると表のとおりである。なお、検討したどの事例も、さまざまな要因が関連し合って深刻化している。

表 事例から確認できた主な要因

	要因	具体的な内容
保護者側の要因	人権意識の欠如	子どもの人権を認めていない 命についての意識の低さ しつけの範囲内だと思ふ
	育児のストレス	他の子が可愛い 子育てに重圧を感じる 子育ての理想と現実の食い違い 思い通りにいかない腹立ち
	未熟な親	若い親 子育ての知識・準備不足 自分の欲求を優先 子育て放棄
	精神的問題	精神疾患
	生育歴の問題	青年期の不品行 家庭環境が複雑 親からの虐待を受けた経験
子ども側の要因	発達問題	発達の遅れ 他の子と違う発達
養育環境の要因	経済的な問題	貧困
	仕事の問題	仕事のストレス 夜間の仕事
	家族の人間関係	夫婦関係の問題 夫のDV ひとり親 孤独感
	地域・社会の問題	ネットワークの弱さ 支援の弱さ

### (2) 家庭科教育の指導内容との関係

要因をもとに高等学校家庭科の保育領域の学習内容を検討すると、まず、「子どもが育つ環境と福祉」、「子育て支援」の学習の充実が求められる。「子供との関わり方について」の親性準備教育との関連で特に注目するのは、「(理想的な家庭を築きたいのに、) 思い通りにいかない腹立ち」、「しつけに体罰は必要という意識」、「世間体を気にして無理に子育てをする」という、事例に見る虐待する保護者の態度である。子どもに自分の理想を押しつけ、うまくいかないと「しつけ」という名の暴力を振るい、世間から問題のある親と思われたくないから隠蔽するという態度である。子どもを親とは独立した存在として子どもの人権を尊重し、養育環境を整え、困難な場合には社会に支援を求めることも、親の子どもへの関わり方であることを指導する教育が考えられる。

## 4. 総括

家庭科の保育領域の学習において、児童虐待はどの学習においても、親とは独立した存在として子どもの人権を尊重すること、親は子育てに困難が生じたときは社会に支援を求め、社会も積極的に支援することを基本的な視点として指導することが重要である。